

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年 1月24日

協議会名: ニセコ町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ニセコバス株式会社	<p>運行系統名:ニセコ町全域 町内全域を運行区域とするデ マンド型運行 ・運賃1乗降200円 ・ドア・ツー・ドアサービスでの 運行 ・午前8時から午後7時まで毎日 運行(平日のみ、午前7時台に 一部地域からの路線を運行) ・車両及び台数 ワンボックスタ イプ(10人乗り) 2台</p>	<p>町民対象としたまちづくり懇談 会でのデマンドバスの説明、町 ホームページによる周知、事業 者バス時刻表、デマンドバスパ ンフレットや観光情報誌へ掲 載、町内コミュニティFM放送で の運行情報提供等による広報 活動を行った。</p>	<p>A 計画どおり年間366日運行 し、事業は適切に実施され ている。</p>	<p>B 平成28年度計画時に目標 に対し、バス利用者数は 20,100人に対して、18,082 人。 月平均運賃収入は333,333 円/月に対して、235,220円 /月 収支比率は、目標15.20%に 対して、10.22%となってい る。  利用者数は、冬季間と8月 は目標数を確保したもの の、目標を下回った。月平 均運賃収入及び収支比率 は目標を達成できていない 状況にある。</p>	<p>現在、車両数は、運行当初から の2台体制を維持している。し かし、冬季間の乗車希望に対 し、所要時間の増等の影響も あり、十分応えきれていない状 況。予約時において、乗り合い 運行を奨励する運用改善を行 い、実車時平均乗車密度が若 干上向きになったものの、抜本 的な解決には至っていない。 現在、地方創生事業を活用し、 町の交通体系見直しに向けた 調査を進めており、その中でデ マンドバス運行の詳細データか ら、課題と解決方法を見出すこ としてしている。 安全な運行体制の確立を図り つつも運行経費の削減と利用 者数の増による収入確保と収 支比率の向上に向け取組みを 進める。 具体的には、引き続き、乗り合 い運行数の増、乗合率及び利 用者数を高める取組みを進め るなど、適宜改善を図る。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年 1月24日

協議会名:

ニセコ町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:

地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿  
(事業実施の目的・必要性)

## 【ニセコ町における地域公共交通】

・ニセコ町においては、バス交通が、高齢者や学生など自動車を運転できない町民はもとより、通勤者や来町者などにとっても必要不可欠な移動手段であり、地域公共交通の主役となっている。

・タクシーは、町内にある2社と近隣地域の会社がサービスを提供しており、バス交通では対応できない個別的な緊急性や融通性を必要とする町民や観光客の移動、バス停までの移動が困難な高齢者等の通院や買い物などに対応している。

## 【民間路線バス(ニセコバス)の実態】

・民間路線バスは、乗降客数の減少と、それに伴う事業性の悪化といった傾向が続いており、乗車密度をみると平成15年度比で0.9~0.1程度低下している。

## 【ニセコ町における地域公共交通の課題】

・ニセコ町においては、人口減少、少子高齢化が進み、移動弱者が増加している。そのような移動弱者が利用できる交通手段の確保が課題。

・バス交通全般の乗降客数の減少や財政負担の増加に対応するため、これまでも毎年度運行計画を見直してきたが、民間路線バスの運行は、サービス水準の維持・確保と事業の継続の観点からみると極めて厳しい状況にある。また、タクシーに関しても、需要の季節変動が大きく、その経営状況は厳しい状況にある。

・地球環境に配慮が必要となる中、バス・タクシーなどの地域公共交通が一体となった取り組みが図られていない。

以上のことから、ニセコ町の実態に即した長期的で持続可能な地域公共交通の確保維持にむけて、利用者・交通事業者・行政関係者の総意のもと、それぞれの立場で役割を担いながら、バス交通運行形態の抜本的な見直しやタクシー事業の多角化・高度化、地域公共交通全体での環境配慮などが急務の課題であった。

そのため、本地域公共交通確保維持事業により、ニセコ町デマンドバスの運行を行い、住民の生活交通の手段の確保を図る。なお、本系統は、JRニセコ駅及びJR昆布駅での地域間交通ネットワークと接続するフィーダー系統であり、学生の通学手段や高齢者の通院・買い物の際の交通手段として大きな役割を果たすものである。

# ニセコ町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

地域の交通について、町の実態に即した長期的で持続可能な確保維持にむけ、利用者・交通事業者・行政等関係者の総意のもと、それぞれの立場で役割を担いながら、バス交通運行形態の抜本的な見直しやタクシー事業の多角化・高度化を検討及び環境配慮などが急務の課題となっている。

本事業により、ニセコ町デマンドバス運行実施し、移動弱者が増加している住民の生活交通の手段の確保を図る。なお、JRニセコ駅及びJR昆布駅での地域間交通ネットワークと本フィーダー系統との接続により、学生の通学手段や高齢者の通院・買い物の際の交通手段として大きな役割を果たすものである。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

- ①通勤・買物・通院などの日常生活に必要な移動における自家用車利用を地域公共交通利用へ転換させ、乗車人数を増加させる。現状20,364人 → 目標20,100人
- ②町民の健康維持や地域活性化に資する施設利用やイベント参加のための移動における地域公共交通利用を促進させ、月平均運賃収入を増加させる。現状、263,460円 → 目標 333,333円
- ③地域公共交通の利用により経常収支比率を改善させる。現状15.15% → 15.20%

## 平成28年度事業概要

- 運行系統名：ニセコ町全域 町内全域を運行区域とするデマンド型運行
- ・運賃1乗降200円
  - ・ドア・ツー・ドアサービスでの運行
  - ・午前8時から午後7時まで毎日運行(平日のみ、午前7時台に一部地域からの路線を運行)
  - ・車両及び台数 ワンボックスタイプ(10人乗り) 2台

## 地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(ニセコ駅、昆布駅)
- ・ニセコバス(株)(町内2路線)
- ・道南バス(株)(町内1路線)
- ・スクールバス(5路線)

## 協議会開催状況

- 平成28年6月30日 第1回協議会  
協議会委員の交代、デマンドバスの運行状況について  
地域内フィーダー系統確保維持計画及び運行計画について
- 平成29年1月25日 第2回協議会  
地域公共交通確保維持改善事業評価について

## 平成28年度事業の実施状況

### 1) プロセス、創意工夫

平成24年10月から従前の町内循環バスに代わる地域公共機関として、デマンドバス(にこっとBUS)を運行している。

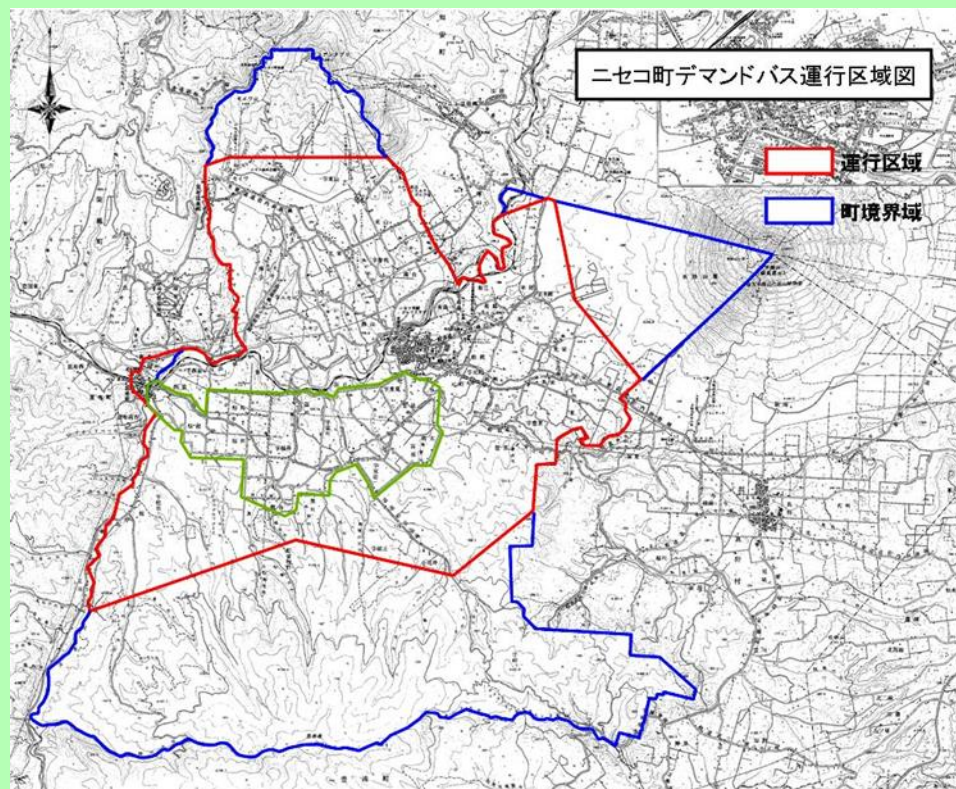
- ・予約電話が繋がらないことに対応するため、話中を改善するガイダンス案内を継続。
- ・利用需要の増や時間集中に対応するため、予約時に乗合運行が増加できるように配慮した。
- ・当初導入車両の走行距離増により、車両入れ替えを行い安定した事業継続環境を確保した。

### 2) 運行系統

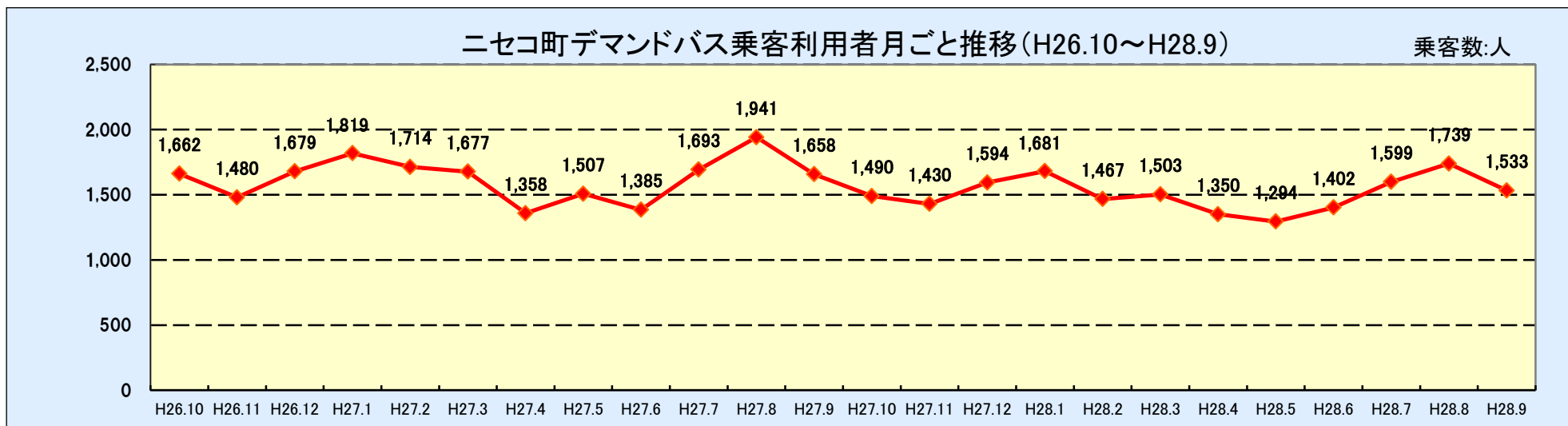
#### 【運行系統】

ニセコ町全域を区域としている。

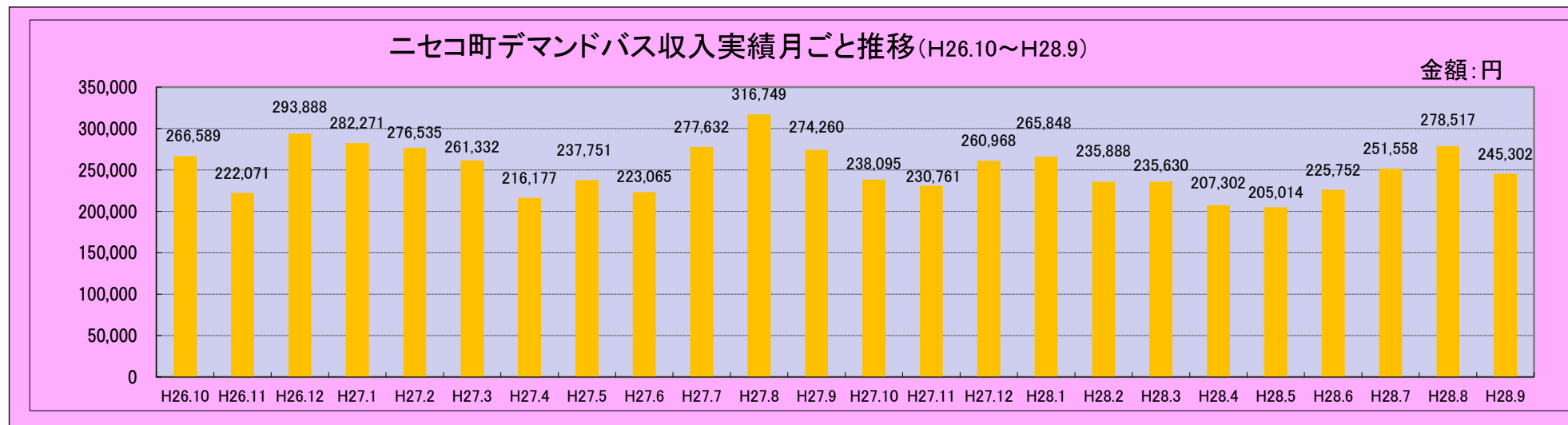
※運行区域図は右図のとおり



### 3) 利用実績



### 4) 収入実績



## 5) 事業実施の適切性

計画どおり年間366日運行し、事業は適切に実施されている。

## 6) 目標・効果達成状況

平成28年度計画時に目標に対し、バス利用者数は20,100人に対して、18,082人。

月平均運賃収入は333,333円／月に対して、240,053円／月  
収支比率は、目標15.20%に対して、10.22%となっている。

利用者数は、冬季間と8月は目標数を確保したものの、目標を下回った。月平均運賃収入及び収支比率は目標を達成できていない状況にある。

## 7) 事業の今後の改善点

- ・現在、運行当初からの2台体制を維持しているが、冬季間の乗車希望に対し、所要時間の増等の影響もあり、十分応えきれていない状況。予約時において、乗り合い運行を奨励する運用改善を行い、実車時平均乗車密度が若干上向きになったものの、抜本的な解決には至っていない。
- ・現在、地方創生事業を活用し、町の交通体系見直しに向けた調査を進めており、その中でデマンドバス運行の詳細データから、課題と解決方法を見出すこととしており、結果を踏まえて対応を進める。
- ・安全な運行体制の確立を図りつつも運行経費の削減と利用者数の増による収入確保と収支比率の向上に向け取組みを進める。
- ・具体的には、引き続き、乗り合い運行数の増、乗合率及び利用者数を高める取組みを進めるなど、適宜改善を図る。

## 8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄